

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|--------------|---|---|------|----|--------|---|------|------|-----------------|---|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 横浜システム工学院専門学校 | 平成4年8月11日 | 杉山 勝巳 | 〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人YSE学園 | 平成4年8月11日 | 杉山 勝巳 | 〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | ロボット・IoTソフト科 | 平成27年文部科学大臣告示第14号 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 本学科では、組み込みソフトウェアを中心に、ハード・ソフト系の仕事を通して成長していける基本的な社会人基礎力と実践的かつ専門的な技術力を持った人材を育成する。そのためにアクティブラーニングやプロジェクトベースラーニングなどを取り入れて、明確で具体的な目標のもとにチーム作業を進めることで、在学中に、プロジェクト管理・スケジュール管理・情報共有・コミュニケーション・プレゼンテーションなどの様々な力を養い、企業へ入社後、仕事を通して主体的に成長していけるたくましく伸びしろのある人材となる学生を育成する。特に2年次は、コンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。また、企業等と連携したカリキュラムの検討、運用、授業方法の研究を行い、より実践的な教育をめざす。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成27年2月17日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1,700 | 702 | 54 | 1,260 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 昼間 | 単位時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40 | 15 | 5 | 2 | 3 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■1学期:4月1日～6月10日 ■2学期:6月11日～9月15日 ■3学期:9月16日～11月25日 ■4学期:11月26日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月4日 ■夏季:8月1日～8月20日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月21日～3月31日 | | 卒業・進級条件 | 卒業要件:1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 放課後、長期休みなどにクラス担任、教育指導室長により個別面談・指導を行っている。 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 YSEフェスタ実行委員会 ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ICT系、IT系のソフト開発、システム運用、インフラ構築、ものづくり系の設計製造 ■就職指導内容 自己分析、業界研究、応募書類作成指導、面接指導など ■卒業生数: 5人 ■就職希望者数: 5人 ■就職者数: 4人 ■就職率: 80% ■卒業生に占める就職者の割合: 80% ■その他 ・就職活動継続: 1人 | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験(国家資格)</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 全国専門学校ロボット競技会スチールファイト 団体優勝5回 全国専門学校ロボット競技会スチールファイト 自律型ロボット対戦競技 ソフトウェア部門 優勝5回 全国専門学校ロボット競技会スチールファイト 二足歩行ロボット対戦競技 優勝5回</p> | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 基本情報技術者試験(国家資格) | ③ | 4人 | 1人 | | | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本情報技術者試験(国家資格) | ③ | 4人 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 5名 ■中退率 27.8% 平成29年4月1日時点において、在学者18名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者13名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 就職、健康上の理由、経済的な理由、学習についていけなくなった等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 補習の実施により習得できなかった科目の単位を補充 本人・保護者・担任(場合によっては学院長・教育指導室長)による面談の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ○IT女子特別奨学金制度:工業専門課程の女子学生に対して、2年間にわたり各学年ごとに特別奨学金60,000円を給付 ○特待生制度:1年次の学業成績、学修態度などを総合的に評価し、きわめて優秀な学生を特待生に認定し、下表のとおり特待生奨学金を給付 第1種特待生 年間 660,000円 第2種特待生 年間 330,000円 第3種特待生 年間 160,000円 第4種特待生 年間 80,000円 ○授業料減免制度:家庭の経済的事情(住民税非課税世帯)により就学が困難な学生で学業成績や課外活動などの面で学校長の推薦が受けられる者に対して、授業料を減免 第1種特待生 年間 330,000円 第2種特待生 年間 240,000円 ○学費延納制度:1年次後期以降の各期の学費納入について、学費納入額の半額を限度に3ヶ月間延納できる制度 ○奨学金活用学費特別納入制度:2年間の学費を在学中に毎月分割納入できる制度。日本学生支援機構の予約奨学生(月額80,000円以上)を申請予定、又は申請中、又は内定している者が利用可能 ○自宅外通学サポート制度:自宅からの通学が困難な者が、自宅外のアパート等を買借し、そこから通学する場合に賃借代補助として毎月20,000円(年間240,000円)を給付 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) JAMOT認証サービスにより平成28年12月 ISO29990適合認証 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | https://www.yca.ac.jp/course/course_r1.html | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

- 1) 教育課程の編成に関すること
 ① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。
 2) 教育の実践に関すること
 ① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。
 ② 新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。
 ③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。
 ④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。
 ⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。
 ⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。
 ⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。
 ⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 (1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①～⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で立案した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただく。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しの提案やアドバイスをいただく。これらの意見、提案、アドバイスを学院長・室長で構成する企画運営会議で諮り、教育課程等に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任 期 | 種 別 |
|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------|-----|
| 富樫 和弘(全学科) | 神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会委員長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日 | ① |
| 前山 浩志(IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科) | デジタルコム株式会社 代表取締役社長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 田村 孝章(IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科) | 株式会社アド・ソア マネジャー | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 粕谷 佳奈(IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科) | 株式会社インターフェイス 東京オフィス 所長代理 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 鈴木 一也(IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科) | 株式会社横浜電算 取締役本部長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 新井 一功(グローバルIT・ビジネス科) | 株式会社機能性表示ブランニング 監査役 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 浜口 大樹(コミック・CGアニメ映像科) | 横浜市経済局中小企業振興部 横浜市工業技術支援センター | 平成29年4月1日～平成31年3月31日 | ① |
| 石澤 勝(コミック・CGアニメ映像科) | 株式会社メディアライン 代表取締役 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 西村 浩幸(コミック・CGアニメ映像科) | 株式会社象鯨 代表取締役 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | ③ |
| 杉山 勝巳 | 横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | |
| 青木 聡 | 横浜システム工学院専門学校 先進IT教育推進室室長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | |
| 馬場 健一 | 横浜システム工学院専門学校 教育広報推進室室長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日 | |
| 中村 照栄 | 横浜システム工学院専門学校 教育指導室室長 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 | |
| 富永 英世 | 横浜システム工学院専門学校 教育設備管理室室長代理 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | |
| 三輪 基敦 | 横浜システム工学院専門学校 先進IT教育推進室 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 毎年2回実施する(6月、9月)
 (開催日時)
 第1回 平成29年6月28日 16:00～18:00
 第2回 平成29年9月19日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 AIサービス活用科の新設に伴い、ロボット・IoTソフト科のカリキュラムの見直しを行った。具体的には、認証技術やクラウドサービスの活用について学んでほしいとの委員からの意見を取り入れ、「暗号・認証技術a」「暗号・認証技術b」として平成31年以降のカリキュラムに反映することとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 教育連携協定書の以下の項目

- ②新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるようにする。
 ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。
 ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。
 ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・ロボットソフト制作基礎／応用／発展、ロボットシステム構築
 現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------------|--|------------|
| ロボットソフト制作基礎 | コミュニケーションロボットプログラミング基礎(音声インターフェース) | デジタルコム株式会社 |
| ロボットソフト制作応用 | コミュニケーションロボットプログラミング応用(インターネット・クラウドとの連携) | デジタルコム株式会社 |
| ロボットソフト制作発展 | コミュニケーションロボットプログラミング発展(SNSとの連携) | デジタルコム株式会社 |
| ロボットシステム構築 | コミュニケーションロボットを活用したサービスアプリケーションシステム開発 | デジタルコム株式会社 |

| 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | | | | | |
|---|---|-------------|-------------|-------------|---|
| <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員研修規則 第2条(研修の基本方針) 教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。 に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。</p> | | | | | |
| <p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1) 人工知能(AI)の活用事例を学ぶ 主催者: 横浜システム工学院専門学校 講師: 株式会社大洋システムテクノロジー ソリューションプランナー事業部 事業部長 木村 岳洋 内容: 人工知能、機械学習、ディープラーニングとは、人工知能のこれから、活用事例、RPA、VRの活用事例、演習 受講者: 吉野太智 日時: 平成29年12月26日(火)13:00~17:10</p> <p>2) AI研修 主催者: 横浜システム工学院専門学校 講師: 山下 俊恵 内容: データ分析・ビッグデータについて、機械学習について 受講者: 青木聡、吉野太智、三輪基敦、他YSE教員 日時: 平成30年2月14日(水)から3月19日(月)までの毎週月水木の9:00~12:10(全15回)</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1) メンタルヘルス理解セミナー 主催者: NPO法人メンタルぶらす協会Reforest 講師: NPO法人メンタルぶらす協会Reforest理事長 麓聡一郎 内容: ADHD/自閉症スペクトラムへの対応 受講者: 青木聡 日時: 平成29年8月9日(水)10:30~16:00</p> <p>2) メンタルヘルス対応力向上研修 主催者: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会 講師: 株式会社エスキヤリア代表取締役COO 岡本真梨子 内容: 精神疾患、発達障害の原因と対応 受講者: 吉野太智 日時: 平成29年8月28日(月)11:00~18:00 平成29年8月29日(火)9:00~16:00</p> | | | | | |
| <p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1) IoT×BigData×AIテクノロジーがもたらすこれからのビジネス 主催者: 横浜商工会議所 情報関連産業部会 講師: 株式会社ABEJA 鶴木 彩 内容: IoT、BigdataとAIを活用して事業の門闕解決した事例紹介 受講者: 三輪基敦 日時: 平成30年7月12日(水)13:30~15:00</p> <p>2) 情報分野教員のためのAI(人工知能)・機械学習の活用技術研修会 主催者: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会 講師: MSGコンサルティングオフィス代表 後藤 昌治 内容: 人工知能概論、機械学習の活用、ディープラーニング、人工知能・機械学習の活用 受講者: 青木聡、三輪基敦 日時: 平成30年8月23日(木)10:00~17:00 平成29年8月24日(金)10:00~16:00</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1) メンタルヘルス理解セミナー 主催者: NPO法人メンタルぶらす協会Reforest 講師: NPO法人メンタルぶらす協会Reforest理事長 麓聡一郎 内容: ハラスメントの種類と対策 受講者: 吉野太智 日時: 平成29年8月9日(木)14:00~16:00</p> | | | | | |
| 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係 | | | | | |
| <p>(1) 学校関係者評価の基本方針 本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。 本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。</p> | | | | | |
| <p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 学校における職業教育の特色は明確になっているか 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか </td> </tr> </tbody> </table> | | ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | (1) 教育理念・目標 | <ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 学校における職業教育の特色は明確になっているか 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか |
| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | | | | |
| (1) 教育理念・目標 | <ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 学校における職業教育の特色は明確になっているか 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | | | | |

| | |
|--------------|---|
| (2) 学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱えている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか |
| (3) 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか（研修等の効果を評価し、文書により記録しているか） |
| (4) 学修成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか |
| (5) 学生支援 | <ul style="list-style-type: none"> (5) 学生支援 ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか |
| (6) 教育環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか |
| (7) 学生の受入れ募集 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） ・履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか |

| | |
|---------------|---|
| (8)財務 | <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか |
| (9)法令等の遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか |
| (10)社会貢献・地域貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか |
| (11)国際交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での前年度の指摘に基づき、第三者評価としてISO29990:2010の審査を受け、認証を取得した。これにより、PDCAのサイクルを確立できたことを確認頂いた。今後、これを継続すべしとの助言を頂いた。卒業生のフォローの一環として卒業生調査および卒業生就職先調査を実施したことを報告し、確認頂いた。卒業生に対しては、同窓会の活性化を支援し、学校とのつながりを強化すべきとの指摘を頂いた。これは今後の課題とした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|------------------------------|-----------------------|--------|
| 中村 隆一 | 秀英高等学校 校長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 校長 |
| 富樫 和弘 | 神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会委員長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 業界団体委員 |
| 田村 孝章 | 株式会社アド マネジャー | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 企業等委員 |
| 藤原 美香 | イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 企業等委員 |
| 粕谷 佳余 | 株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 企業等委員 |
| 新井 一功 | 株式会社機能性表示プランニング 監査役 | 平成28年6月1日～平成31年5月31日 | 企業等委員 |
| 前山 浩志 | デジタルコム株式会社 代表取締役社長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 企業等委員 |
| 金子 秀光 | 株式会社横浜電算 代表取締役社長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 企業等委員 |
| 久保寺 美奈 | 卒業生 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日 | 卒業生 |
| 森川 美穂 | 保護者 | 平成29年4月20日～平成31年3月31日 | 保護者 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

[URL:http://www.vse.ac.jp](http://www.vse.ac.jp) 毎年9月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | ・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、情報公開 加入団体・教育連携 |
| (2)各学科等の教育 | ・学科案内 情報システム科 ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法 |
| (3)教職員 | ・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | ・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | ・事業報告書(抜粋) ・学校案内 実習室・施設・設備 ・キャンパスライフ、YSE新聞 |
| (6)学生の生活支援 | ・入学案内 各種サポート制度 |
| (7)学生納付金・修学支援 | ・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度 |
| (8)学校の財務 | ・財務計算に関する書類 |
| (9)学校評価 | ・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書 |
| (10)国際連携の状況 | ・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度 |
| (11)その他 | ・学則 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

[URL:http://www.vse.ac.jp](http://www.vse.ac.jp)

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|----------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | ITリテラシー | PC・オフィスソフトの基本操作（Word、Excel）、情報システム・Webシステムの活用 | 1 ① | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Javaプログラミング基礎a | Java言語の基本文法とプログラミング技法、アルゴリズム | 1 ① | 108 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Javaプログラミング基礎b | Javaプログラミング（オブジェクト指向） | 1 ② | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Javaプログラミング応用 | Javaプログラミング（クラス、ポリモーフィズム） | 1 ③ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Javaプログラミング実用 | Javaプログラミング（アプリケーション制作） | 1 ④ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | コンピュータシステム | ハードウェア、ソフトウェア | 1 ② | 54 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | システム開発とマネジメント | 開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、企業と法務、経営戦略 | 1 ③ | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ITシステム基礎 | 情報技術の基礎、コンピュータシステムの構成要素、要素技術 | 1 ① | 72 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ネットワーク基礎 | ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理 | 1 ② | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|----------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | データベース基礎 | データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理 | 1 ② | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 情報セキュリティ | 情報セキュリティ、セキュリティマネジメント | 1 ② | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ネットワーク・データベース | LAN構築、ネットワークコマンド、データベース構築、SQL | 1 ③ | 36 | | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Webサイト制作基礎 | 画面レイアウト、カラーコーディネート、HTML/CSS/JavaScript | 1 ④ | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ゲーム基礎 | ゲームの歴史、ゲームの種類、ゲーム開発手法、シナリオ制作法 | 1 ③ | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボット基礎 | ロボットの進化・仕組み・特徴・構造・機能・応用 | 1 ③ | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | インターフェースデザイン基礎 | ユーザインタフェースの設計技法、レイアウト技法、カラーコーディネート | 1 ④ | 36 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボット研究 | Pepperでコミュニケーションロボット研究。Pythonプログラミング基礎。 | 1 ④ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 英語コミュニケーションIa | 英語によるコミュニケーションの基礎 | 1 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|-------------------|---------------------------|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | ○ | 英語コミュニケーションI b | 英語によるコミュニケーションの基礎 | 1 ② | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 英語コミュニケーションI c | 英語によるコミュニケーションの応用 | 1 ③ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 英語コミュニケーションI d | 英語によるコミュニケーションの応用 | 1 ④ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインa | 進路検討、業界研究、ビジネスマナー、就職活動準備等 | 1 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインb | 進路検討、業界研究、ビジネスマナー、就職活動準備等 | 1 ② | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインc | 進路検討、業界研究、ビジネスマナー、就職活動準備等 | 1 ③ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインd | 進路検討、業界研究、ビジネスマナー、就職活動準備等 | 1 ④ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボット・IoTドリーム | ロボット業界・IoT業界で活躍する人物像の紹介 | 2 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | インターフェースデザイン応用 | GUIを中心にしたインターフェース実装 | 2 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|-------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | ロボットプログラミング | NXT自律走行ロボットプログラミング | 2 ① | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボコンチャレンジ基礎 | 自律走行ロボットソフトウェア開発 (個人) | 2 ② | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボコンチャレンジ応用 | 自律走行ロボットソフトウェア開発 (チーム) | 2 ③ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボコンチャレンジ実践 | 自律走行競技ソフトウェアプロジェクト開発 | 2 ④ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボットソフト制作基礎 | コミュニケーションロボットプログラミング基礎 (音声インターフェース) | 2 ① | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | ロボット製作基礎 | ロボットのスイッチやセンサーやLEDなどで電子工作基礎 | 2 ① | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボットソフト制作応用 | コミュニケーションロボットプログラミング応用 (インターネット・クラウドとの連携) | 2 ② | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | ロボット製作応用 | ロボットの遠隔操作処理系の電子工作 | 2 ② | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボットソフト制作発展 | コミュニケーションロボットプログラミング発展 (SNSとの連携) | 2 ③ | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 合計 | | | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|-----------------------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | ロボット製作 発展 | ロボットとの動力部分系の電子工作 | 2 ③ | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボットシス テム構築 | コミュニケーションロボットを活用した サービスアプリケーションシステム開発 | 2 ④ | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 画像/音声処 理基礎 | ロボットが利用する画像/サウンド処理 | 2 ① | 36 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ロボット遠隔 操作基礎 | ロボットを遠隔操作する方法と仕組み | 2 ② | 72 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 人工知能A I 基礎 | ビッグデータ処理やロボット制御に使われ る人工知能(A I) | 2 ③ | 72 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 人工知能A I プログラミング | 人工知能(A I)を使ったロボット制御 | 2 ④ | 72 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | | ○ | 英語コミュニ ケーションⅡ a | 英語によるコミュニケーションの応用 | 2 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | | ○ | 英語コミュニ ケーションⅡ b | 英語によるコミュニケーションの応用 | 2 ② | 18 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | | ○ | 英語コミュニ ケーションⅡ c | 英語によるコミュニケーションの実用 | 2 ③ | 18 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (工業専門課程ロボット・IoTソフト科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|---------------|-------------------|---------|--------------|----------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | ○ | 英語コミュニケーションⅡd | 英語によるコミュニケーションの実用 | 2 ④ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインⅡa | 就職指導、進学指導等 | 2 ① | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインⅡb | 就職指導、進学指導等 | 2 ② | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインⅡc | 就職指導、進学指導等 | 2 ③ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインⅡd | 就職指導、進学指導等 | 2 ④ | 18 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | 50科目 | 2,016単位時間(単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|-------------------------------|----------|----|
| 卒業要件：1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。 | 1学年の学期区分 | 4期 |
| | 1学期の授業期間 | 9週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。